

第3期実施計画の進捗のご報告

医療・福祉機器等の 研究開発・実用化の促進

医療現場や福祉・介護現場で必要とする医療・福祉機器や医療・福祉サービスのニーズと医療・福祉機器等の分野への進出を希望する企業とのマッチングを進め、医療・介護現場のニーズのソリューションを提供しています。

平成23年度は医療現場のニーズを約100件収集し、本事業では、これまで9件の試作品ができました。

そのほか、本事業では、異業種分野の方々に医療・福祉市場の動向や関連法規等の知識を深めていただき、本分野への参入を促進するため、三重県教育文化会館でセミナーを開催しました。「医療機器と開発と規制」と「福祉用具の開発について」のテーマでの講演会の後、講師を囲んでの交流会が行われ、70人近くの参加者となりました。



事業の流れ

医療・福祉現場のニーズ収集
医療従事者のニーズ・アイデア収集

開発促進会議

専門家により収集したニーズが
実現可能かどうかを検討

ニーズ公開マッチング

ニーズを公開し、試作に取り組む
県内ものづくり企業を募集

試作品製作・改良

試作品の製作・
ブラッシュアップ

製造や販売に向けたマッチング

医療機器メーカーや
販売先とのマッチング

製品化



地域資源活用型 医薬品等開発促進事業

三重県内の豊かな天然資源を活用し、メディカルバレーで培ったネットワークや県内研究者等の高度な知識をもつ人材が連携することで、付加価値の高い医薬品、化粧品や特定保健用食品及びえん困難者用食品などの継続的な開発を促進することで、地域産業の活性化と地域資源のブランド化をめざします。

本事業は、平成23年度から開始し、これまでに試作品7品目を開発しました。今年度は、天然資源を活用し、医薬品や化粧品などの付加価値の高い新製品等の開発に取り組む事業者を公募し、試作や製品化に必要な支援から、販路開拓・販売促進等まで専門家による一貫した支援を行っていくプロジェクトチームを結成しました。年度内の製品化、試験販売等をめざし事業を展開していきます。

その他、本事業の活用を広く広報する目的で、6月に産学連携学会第10回大会（高知県）で発表を行いました。メディカルバレー推進事業の背景や本事業の仕組みを構築する際の検討事項、試作品の開発についての報告等を行い、質問も多く寄せられ有意義な発表となりました。

事業の流れ

地域資源の調査
活用の可能性のある地域資源を調査

開発促進会議

専門家により収集した地域資源の
実用化が可能かどうかを検討

選定した地域資源の公開と募集

選定した地域資源を公開し、
製品化を希望する事業者を募集

製品化開発への支援

プロジェクトチームを結成し、事業者と
専門家等で研究開発・試作品の製作支援

製造化ブラッシュアップや販売促進支援

製品化に向けた試作品の
ブラッシュアップや販売促進支援

製品化



台湾ミッションに参加しました

みえメディカルバレープロジェクトは、平成24年7月3日（火）から6日（金）に実施された鈴木知事を団長とする台湾産業交流ミッションに、三重県薬事工業会会員企業、三重大学、鈴鹿医療科学大学とともに参加し、政府機関、産業関連機関の訪問や、現地企業との意見交換を行いました。また、医薬品、化粧品、医療機器の許認可を管轄する台湾食品薬物管理局と、双方の行政窓口の確認に関する覚書を締結し、今後、県内の薬事関係企業が台湾で企業活動を円滑に行えるよう、台湾政府機関・産業関連機関等との連携・支援体制を構築しました。



みえメディカル 研究会総会

7月2日にみえメディカル研究会総会が開催されました。第1部では各研究会の主旨から昨年度の活動報告と今年度の活動計画の説明が行われました。また、今年度より活動を再開する統合医療研究会（主査：鈴鹿医療科学大学鍼灸学部 佐々木和郎教授）が承認されました。第2部では三重大学医学部看護学科の小森照久教授が「間違いだらけの接し方～『うつ』を正しく理解する～」の演題で講演しました。



インターフェックスに 出展しました

6月27日～29日に東京ビッグサイトで開催された第25回インターフェックスジャパンに三重県薬事工業会と共同で出展しました。メディカルバレープロジェクト参画企業の成果物の展示やメディカルバレー推進グループの取組をポスターで紹介し、当ブースにお越し頂いた約250人の来場者に三重県の取組と三重県薬事工業会の情報発信をすることができました。

